

令和4年度学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立葛飾野高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主任教諭（総務部主任）＝事務局長 1名
- (3) 内部委員の構成 副校長、経営企画室長、主幹教諭、主任教諭 計7名
- (4) 協議委員の構成 公的機関代表、近隣中学校長、近隣自治会関係者
保護者代表、同窓会代表 計6名

2 令和4年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1回から第3回まで）の開催日、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和4年5月12日（木）内部委員7名、協議委員7名 ＊感染症対策のため書面開催
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の委嘱、学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
本校の現状と課題等説明、協議・意見交換
 - 第2回 令和4年11月10日（木）内部委員7名、協議委員7名
授業公開、各分掌・学年等の中間総括説明、協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価
アンケート実施及び同アンケート（案）の内容検討、協議
 - 第3回 令和5年2月3日（金）内部委員7名、協議委員7名
各分掌・学年等による総括説明、学校評価アンケート報告及び学校運営に関する意見・提言、
協議等
- (2) 評価委員会の開催日等
 - 第1回 令和4年5月12日（木）内部委員2名、評価委員2名 ＊感染症対策のため書面開催
評価委員委嘱の説明、今年度の活動計画の検討、協議
 - 第2回 令和4年11月10日（木）内部委員2名、評価委員2名
学校評価アンケート案の内容及び実施方法等の検討、協議
 - 第3回 令和5年2月3日（金）内部委員2名、評価委員2名
学校評価アンケート結果原案の検討、協議

3 学校運営連絡協議会による学校評価

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・11月 全校生徒 回収：642人 回収率：73%
 - ・11月 保護者全員 回収：229人 回収率：26%
 - ・11月 近隣住民 回収：35人 回収率：80%
 - ・11月 教職員 回収：49人 回収率：100%
- (3) 主な評価項目
学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備、LWBの推進
- (4) 評価結果の概要
 - ・地域の本校生徒への肯定的評価は93%と前年度比11ポイント増となった。学校周辺の美化活動や登下校時の状況改善に起因するものと考える。
 - ・保護者の回答率が今年度からスマホでの回答のみとしたため、昨年度70%から26%へ減少した。
 - ・保護者回答の各項目での昨年度との比較では大きな変化はなかった。
 - ・生徒の回答で肯定的評価がもっとも高いのは、進路指導88%、帰属意識85%だった。
 - ・教職員の「生活指導に係る取組」への肯定的評価が100%と他の項目に比して高かった。
- (5) 評価結果の分析・考察
保護者の「入学させたこと」への肯定的評価は88%だが、生徒の「入学したこと」への肯定的評価は82%と保護者より6ポイント低かった。今年度在籍している学年は入試倍率が低く、全入学年もあったため、保護者意識と生徒の学力が釣り合っていないことが理由の一つとして考えられる。

学習指導の一層の充実を図り、生徒が「入学前より学力が向上した」と自己の成長を実感できる指導を
実践していくことで生徒の「学校満足度」が保護者のそれに近づくものと推測できる。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・協議委員から本校の課題や問題点、改善点について一般的批評ではなく、具体的な質問や遠慮のない建設的な意見・提言を受けることができた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・自転車通学の生徒が多い中、交通ルールを遵守しての通学が徹底されれば、近隣住民等の安心・安全につながり、地域の学校全体に対する更なる肯定的評価につながるはずである。
- ・学校評価アンケートの生徒の回答については、複数の問でおおむね数値は高めではあるが、生徒が自ら目標を立て、困難に打ち勝ち、達成に向けて活動が継続できるよう指導をすべきである。
- ・地域の方に学校の情報をいかに伝えるか。ホームページだけではなく、校外への掲示物等を増やす。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

- ・生徒、保護者に教育目標等を積極的に周知し、一層、教育活動への理解と協力を得られるようにする。
- ・これまで以上に地域から大切な存在と評価されるよう、よりよい教育活動の実践に努める。
- ・生徒の「入学してよかった」への肯定的評価の更なる割合向上を目指し、教育活動の更なる工夫改善を図る。

(2) 学習指導

- ・アクティブラーニングの視点を取り入れた授業改善への取組を継続し、生徒の主体的な学びを引き出す。
- ・授業外学習時間の習慣を身に付けさせるためにも、キャリア教育と結び付け、学びへの内発的動機付けを高めさせる。
- ・土曜講習の在り方を見直し、新たな学力向上施策の推進に取り組む。

(3) 生活指導

- ・生活指導の一層の充実には保護者や地域の理解と協力が必要である。校則は、学校生活を送るに当たり、必要かつ合理的な範囲で定めた学習・生活上の規定であるということを理解してもらう。

(4) 進路指導

- ・「葛飾野の進路指導」の定着と質的向上を図っていく。学年集会を核とした進路指導と丁寧な個人面談を継続していく。
- ・生徒、保護者には計画的に適時・適切な進路情報を発信し、一層生徒の進路実現への意識啓発を図る。

(5) 特別活動

- ・ホームルーム活動、学年集会等の充実を図り、生徒のクラスや学年、学校への帰属意識を涵養する。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 7人

(2) 学校がよくなったと（「どちらかといえばそう思う」を含む）答えた協議委員の人数 7人

そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない	無回答
7	0	0	0	0	0

7 職員会議、企画調整会議等への協議委員の参加実績

- ・令和4年5月12日、11月10日、協議委員による『授業参観・部活動見学』の実績あり。

8 その他

- ・学校評価アンケートの回収については、保護者と地域からの回収率が課題である。
- ・地域、保護者による学校評価の精度を上げるため教育活動に係る情報発信の一層の工夫改善に努める。